

平成30年度地産地消等優良活動表彰

広島県東広島市

中国四国
農政局長賞

東広島市酒米栽培推進協議会

【組織概要】

- 代表者 : 腰本 義文
- 所在地 : 東広島市高屋町杵原1264-1
- 活動開始年 : 平成元年
- 生産者 : 21人、9法人



【取組内容】

- 「東広島の水と米を用いて西条の銘酒を！」を理念に平成元年に雄町研究会を発足し、平成4年に現在の東広島市酒米栽培推進協議会に改称。西条の酒造りに地元で生産した酒米を使用し、地産地消による酒造りを推進。
- 恵まれた風土を生かして、栽培等の工夫により高品質な酒米を生産し、作付面積を拡大。

推進協議会として一体的な活動の確立

技術者による栽培方法の統一化で高品質化

農林水産業の振興及び消費者への理解増進



・酒造会社やJA、精米機器メーカー、国県の研究機関、酒造関係機関が協力・連携することにより、生産者と需要者、また、それを支える栽培技術や精米技術など支援体制が有機的に結合することで強固な推進体制を維持。
・地域が一体的に生産・供給を行うことで、継続的な取組基盤を確立。

・他産地との差別化を図るため「山田錦」単一品種のみを栽培。
・技術者による遺伝的種子選抜や栽培方法の統一化を行い、高品質化を図るとともに、玄米成分分析で需要者に具体的な品質を公開することにより「選ばれる山田錦」として需要拡大を図っている。

・酒米を特産品として栽培することにより、生産農家の所得向上と地産地消に対する意識の醸成及びブランド化を図っている。
・毎年行われる「酒まつり」に参加し、生産した酒米を使用した日本酒のアピール。
・生産地域に幟旗、看板を設置する等「山田錦」の特産地であることをアピール。

平成30年度地産地消等優良活動表彰

山口県萩市

社会福祉法人 E.G.F

中国四国
農政局長賞

【組織概要】

- 代表者 : 野稻 忠男
- 所在地 : 山口県萩市大字下小川1000
- 活動開始年 : 平成20年
- 生産者 : 40名



【取組内容】



- 平成20年、障害者が農業に取り組む施設として「のんきな農場」を開設。平成22年、社会福祉法人認可。平成27年、認定農業者となる。
- 障害者が遊休農地で農業に取り組むことで自身の価値を高め、さらに規格外野菜をカットの上冷凍し、全て山口県内の学校給食へ販売。
- 地域農家が廃棄する農産物を障害者が収穫することでハウスの回転率が向上。

規格外品の有効活用・遊休農地の活用

農産物の安定的な生産・供給

国産・地場産品の魅力を訴求



- ・規格外のイチゴのジャムやスイーツの加工から始まり、規格外野菜を利用して、「ボイル冷凍カット野菜」を生産販売。
- ・近隣のリタイアする高齢農家から、遊休農地の活用依頼は年々増加。

- ・カット野菜は、規格を気にせず全量製品化できることが、安定供給に繋がる。
- ・山口県学校給食会や農事組合法人福の里、阿武町等と連携し、100%山口県産の商品を山口県内の学校給食に提供することにより、持続的な生産に繋がる。

- ・地域活動に積極的に参加し、野菜の収穫体験や直売所への野菜提供などに取り組む。
- ・特別支援学校の実習の受け入れ、学校の栄養士に生産・加工現場を見学してもらうなど、障害者福祉や、地産地消の取組等について、幅広い理解促進に努める。

平成30年度地産地消等優良活動表彰

岡山県笠岡市

中国四国
農政局長賞

医療法人 緑十字会

【組織概要】

- 代表者 : 小野 泰生
- 所在地 : 岡山県笠岡市笠岡5102-14
- 活動開始年 : 平成27年



平成30年6月 地産地消御膳
祭り寿司、キャベツのごま和え、
なす田楽、美人うどんのお吸い物、桑茶
(地場食材使用率 94%)

【取組内容】

- 医療法人緑十字会は昭和35年に設立。
- 笠岡中央病院を中核として、老人保健施設、訪問看護、通所介護等を運営し、地域に根付いた医療と福祉を提供。
- 管理栄養士が中心となって、給食委託事業者の日清医療食品(株)と協働で笠岡市及びその近隣市町で生産された旬の食材を活かした献立を平成27年1月から月に1回「地産地消御膳」として入院患者や施設利用者に提供する等地産地消活動を推進。
- 笠岡市、JA倉敷かさやとの連携により、地場食材を開拓し、地域の地産地消イベントにも積極的に参加している。



管理栄養士の生産者訪問

給食への関心の高まり

地産地消活動の情報発信



桑の実収穫体験(白石島)

- ・生産者と交流を重ねることで、地場食材の生育状況の情報交換が可能となり、食材の特徴を活かした献立作成を実施。また、規格外の食材(ソーセージの切り落とし、野菜)の情報が明らかとなり、給食の材料として活用することで、生産者の所得向上にも貢献。



生産者・協力者との交流会

- ・地場食材の使用をアピールするお品書きや掲示物を見て、また生産者との交流会を通して、喫食者から購入方法について問い合わせが増えており、地場食材を使用した給食が地域住民による地産地消に繋がっている。



大空と大地のカーニバルへ参加

- ・給食体験会や地産地消祭りを企画したり、市内のマルシェへ出店し(地産地消豚汁の販売)地域住民へ地産地消給食のメリットや地場食材の魅力をアピール。
- ・地産地消活動についてブログや学会発表で広く情報を発信している。

平成30年度地産地消等優良活動表彰

徳島県板野町

中国四国
農政局長賞

大杉 麻弥

【組織概要】

- 代 表 者 : 大杉麻弥
- 所 在 地 : 徳島県板野郡板野町
- 活動開始年 : 平成27年



【取組内容】

- カフェ「つむぎカフェ」を経営し、県産食材を多く使った料理の提供や地場産品を活用したレシピの考案といった地産地消活動を推進。
- 新聞社や地域組織が主催する料理教室の講師や、徳島県が認定する「阿波ふうどスペシャリスト」としてSNSなども用いて、地場産品の活用方法を広く消費者に発信。

「徳島の食材と食文化」の
魅力や価値を情報発信

子どもたちに向けた地産
地消推進

幅広い人を対象とした地
産地消推進



・「つむぎカフェ」では、農林漁業者の意見も取り入れたメニューを開発して、県産野菜をたくさん提供することで、野菜の美味しさ、活用方法を広め、県民の野菜摂取量アップに貢献し、健康増進の役割も果たしている。
・人参や藍などの徳島を代表する特産品の利用といった啓発活動を展開することで、産地の活性化と消費拡大を推進。

・「つむぎカフェ」では「子ども食堂」を開催し、子どもたちに野菜の美味しさや親子で取り組める料理について教えている。
・地域の小・中学校や高校、特別支援学校においても、地産地消の重要性やそれが倫理的消費（エシカル消費）に繋がることを教えており、若い世代によって地産地消活動が未来へ継続されることに貢献。

・これまでに約7000名以上が「つむぎカフェ」で徳島県の食材の魅力に触れることができ、仕入先の農場見学会なども企画している。
・料理教室やマルシェなど、消費者との交流の場にて、地場産品の栽培方法や取組内容、旬、調理方法などの情報を提供することで、消費者の地産地消への理解と関心を深める活動を推進。